

10月に『名演説で学ぶ英語』という英語の本を紹介しました。

外国人とコミュニケーションをとるときに、英語は大切です。日本にいても、海外にいても、外国人から話しかけられるときは、たいてい英語で話しかけられます。英語を学ぶことで、色々な人とコミュニケーションをとれる機会が増えると思います。

英語が便利であることはもちろんなのですが、私は外国に行くとき、いつもその国の言葉をいくつか覚えていくようにしています。必ず覚えるのは、「こんにちは」と「ありがとう」。外国では、色々な人に会いますし、自分の方が何かをしてもらうことが多いからです。そして余裕があれば、「おいしいです」「うれしいです」「トイレはどこですか」…といった言葉も覚えます。

「トイレはどこですか」は単に、私の英語の発音が下手で、相手も英語が得意でなかったときに、いつまでもトイレの場所がわからないという経験があるからなのですが…食べ物がおいしかったとき、何か嬉しいことがあったとき、その感想や気持ちを表す言葉を、その国の言葉で言うと喜んでもらえたり、その人との距離が近くなったりするからです。

こんなふうにして外国の言葉に触れてみると、世界には本当にたくさんの言葉があって、文字も発音も文法も、日本語とは全然違ったり、あるいは似ていたりすることがあるんだなと気づかされます。

『にぎやかな外国語の世界』（黒田龍之助著 白水社 2007年）は、そんな世界にある色々な言葉にちょっと触れてみるのにオススメの1冊。ロシア語やチェコ語をはじめ、小さいときから外国語が大好きだったという著者が、「かたち」「ひびき」「かず」「なまえ」…といった視点から、世界にはどんな言葉があるのかを教えてください。

“А л и с а”…この言葉、何語で何を表しているかわかりますか？

答えは、ロシア語で『不思議の国のアリス』の「アリス」という名前を表しています。英語ではAliceですね。

「アリス」は、ドイツ語でもフランス語でもAliceですが、ロシア語だとこんなふうに書きます。ロシア語ではキリル文字という文字が使われていて、日本語や英語では見たことのない文字もいくつかあります。またAliceは一緒ですが、ドイツ語やフランス語にも、英語にはない文字が存在します。他にも、お隣の国 韓国で使われているハングル文字や、インドで使われているナーガリー文字など…知らない「かたち」をしている文字を使う言葉はたくさんあります。

また日本語のように横書き・縦書きの両方ができるものもあれば、横書きしかできない文字、縦書きしかできない文字もあり、左から右ではなく、右から左に書いていく文字もあります。

「ひびき」についてはどうでしょうか。英語やほかの言語を見ていて不思議に感じるのは、cat、cut…「あつCはカキクケコ系なのかな…」と思ったら、church、cent…「組み合わせによって全然発音が違う！」ということ。さらにknifeは、kを発音しない！？などなど、音は書かれた通りに、発音されなかったりもしますね。

「かず」の表し方・数え方は、なかなか複雑で面白いです。

例えば、チェコ語で「学生」「student」の複数形は“studenti”、「本」は単数形では“kniha”ですが複数形は“knihy”、「自転車」は単数形では“kolo”ですが複数形では“kola”…なんで？

中国語で1から順番に数を数えると「100」は「一百」、「101」は「一百零一」で、「110」は「一百一(十)」…

もう少しでルールがわかりそうなのに…？？。

英語には「60」は“sixty”があるし、「70」は“seventy”、「80」は“eighty”がありますが、フランス語は「60」“soixante”までしかありません。じゃあ「70」はどうするのか？…「70」は60(soixante)+10(dix)で“soixante-dix”、「80」は、4( quatre)×20(vingt)で“quatre-vingt”…なんで？

ですが日本語も、他の言語に負けず劣らず複雑です。動物は一匹、二匹だけど、ウサギは一羽ですよ。

鉛筆は1本、紙は1枚、本は1冊…どんなルールで自分が使い分けているか、外国人に説明できますか？

数える対象によって数え方が変わるなんて、きっと外国人に「なんで？？」と思われるはず。

「なまえ」も国によって様々です。日本語では文字を使ったバリエーションが豊富な名前が可能です。そして、基本的には良い意味を込めて名前をつけることが多いですね。ところが、トルコでは「醜い」という意味の言葉や、エジプトでは「ずた袋」という意味の言葉を名前にすることがあるそうです。「あまり美しい名前をつけると、悪魔や魔物が取りつく、そうならないといけない」というような考え方から名前をつけるところもあるからなんですね。人名だけでなく、地名にも色々な違いがあることが、本書では紹介されています。

「外国語を知ること、世界の多様性を知ること」、そのように考えていると著者の黒田さんは話します。

輸入品のパッケージ、街の看板や表示など…日本にいても色々なところで、様々な外国語に遭遇します。

この本を機会に、外国語の世界をのぞいてみませんか。

ちょっとしたきっかけから、自分が面白いと思える外国語が見つかるかもしれません。